

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100050		
法人名	株式会社 さわやか倶楽部		
事業所名	グループホーム たいよう		
所在地	福岡県北九州市門司区大積1174-1		
自己評価作成日	平成22年6月2日	評価結果確定日	平成22年7月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生きるから暮らすへというテーマで生き甲斐作りとしてリハビリに取り組んでいます。出来る事はして頂く、ご利用者様の殆どが参加されています。その後にラジオ体操・嚙下体操・下肢大腿部筋力アップの足上げ・立ち上がり訓練等で効果が出ています。ご家族も判るそうです。
地域の関りも町内のハイキング参加・港祭りの総踊りに職員が大積町婦人部として参加して踊ったり、町内の運動会に参加したり、盆踊りにも参加します。8月のたいよう夏祭りは町内から沢山来られます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

開設当初の管理者による地域へのポスティングやバス停周辺の草取り活動が実を結び、現在では、地域行事への参加、散歩時の近隣の方々とのふれ合い、古紙回収への協力など、地域との気兼ねない“おつきあい”が深まりを見せている。職員に対する資格取得や研修システムが確立されており、法人独自の認定システムにより、給与面に反映させるなど、学びの場の提供や働く意欲の向上に向けた取組みがある。言葉として表現し難い感謝の言葉を綴り、掲示することにより、地域、職員、利用者間のきずなが更に深まっている。今後、利用者の状況変化に伴った個別支援へ特化した取組み、及び利用者の視点にたった利用者の心に寄り添うケアへの取組みが期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年6月8日		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の進行に伴い参加出来るご利用者は少なくなっているが、町内行事は殆ど参加しています。最近では町内ハイキングへみどりの日に参加し、美味しいお弁当頂き食べてきました。理念に沿って家事全般に関わって頂いています	開設当初より「地域に出ること」と「家事参加」を柱としたホーム独自の理念が作成されている。利用者のできることを見出し、利用者一人ひとりが役割を持って家事にかかわれるような取組みがある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加は、運営推進会議の時に地域行事を毎回聞いているので、参加している。天気の良い風のない日は散歩に出て地域住民と出会いお話ししたり、犬と触れ合ったりさせて頂き地域の一員として、長いお付き合いさせていただいている。	ハイキングやみなと祭り等の地域行事への参加、日常の散歩時の近隣の方々とのふれ合い、古紙回収への協力、バス停周辺の草取りなど、近隣の方々との気兼ねない“おつきあい”が繰り返されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	何時でも地域に役立ちたいし、認知症の事に関して啓発できる事があれば協力致しますと常に運営推進会議で話しているが、実際には話して下されば、説明しているくらいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況は毎回説明し、その事でお話が沢山出来るが意見は少ない。意見が出れば向上へつなげている	関係者を招いて、2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況の説明や制度等についての勉強会の開催、地域情報の収集、ホーム行事の開催時期についての協議など、地域の視点に立った運営推進会議となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室が出ると地域包括へはすぐ空き情報を知らせる。昨年11月も包括から困難事例の受け入れを紹介され、入居に至っている。その件が途中から生保に変わり区役所担当者とは密に連絡を取り合っている。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加がある。空室時には地域包括支援センターへ連絡を行い、利用者の紹介を受けたり、利用者の状況に応じて行政担当職員と連絡を取り支援を行うなど、連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体の身体拘束の勉強会に取り組んでいる。玄関のドアは、自動なので前を通るだけで空いてしまい、閉めている時もある。ご利用者が出たがられれば、一緒に出るようにしている。	法人全体及びホームで、計画立てた勉強会への取組みがある。勉強会後は、全職員よりレポート提出を義務付けており、レポート内容について管理者がコメントを付すなど、有意義な勉強会となっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については勉強会を行いレポートも昨年は全職員提出している。今年度も取り組むための努力をしたいし、適切な資料を探している。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政書士事務所から2人来ていただき、スライドを使っての説明を職員・ご利用者様にして頂いた経緯がある。敷地内の小規模多機能型利用のご家族様なので何時でも相談してくださいと気軽に聞ける間柄なので心強い。今のところ対象になる方もいないが、勉強はしていきます。	運営推進会議時やホーム勉強会時に制度等について専門家よりレクチャーを受けている。制度等の利用実績はないが、法人全体やホームでの勉強会、運営推進会議時を利用した説明等、継続して取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明はしていますし、疑問にはお答えしています。納得できたら署名・捺印をお願いします。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を直接管理者が聞いたり、福祉相談員さんを通じて聴く事があるがすべて運営に反映させている。	日々のかかわりの中で利用者の思いの把握に努め、年2回の家族会、家族面会時、ブログ等を通じて、家族の意見や要望の表出に努めている。把握した思いや意見等は、介護計画や行事に反映させるなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議後の職員ミーティング会議で意見がどんどん出ている。次の日から反映させている。	毎月のフロアミーティングにて、職員一人ひとりの意見を出し合う機会がある。出された意見等は、素早く実行に移している。また、議事録としてエリアマネージャーから本部へ伝達され、必要に応じて本部がかかわるなど、システムが確立されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ています。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり性別や、年齢などを理由に排除はない。 現在の職員全員が能力發揮し、生き生き勤務していると思う。社会参加や、自己実現の権利は本人次第で十分に活かされる環境にある。	職員の採用にあたっては、一切の制限等は設けておらず、職員は全て常勤職員としての雇用である。法人内のシステムを利用したヘルパー2級の資格取得や介護福祉士の資格取得を奨励している。法人独自の認定システムを作り、給与面に反映させるなどの取組みがある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員には毎日の指示書の中に御利用者様に対する尊厳に対して例を上げ書かれている。よんだら確認印を押している。	高齢者虐待の勉強会を通じて、高齢者の人権について学ぶ機会がある。また、法人全体として、住職さんからの講話を通じて、職員の人権意識の喚起に努めている。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・新人研修・現任者研修・トレーナー制度が充実している。研修を受ける機会の確保は確り出来ているので、本人次第で勉強は出来る環境にある。内部資格認定講座も現在3通り4月より同時進行している。医療・リハビリ・コミュニケーション講座とどれも満員です。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入して研修会での交流はある。グループ内での交流の機会はある良いところはお互い取り入れ資質向上に繋げている。これからも取り組んでいくのが会社の方針である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期にはご本人との心を繋ぐ関係づくりが大切で早く慣れて頂く為にも、安心していただく為にも耳を傾け不安なこと、要望を聞き出し安心できる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりにも努めている	はじめに不安や困っている事は聞き要望などを聞き確り話し合う努力はしている。面会があればその度に関係ある話はして、様子や取り組みについて伝え、関係作りに繋がっている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援の優先順位を話し合いサービス利用の対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社の方針として生きるから～暮らすへの取り組みとして出来る事はして頂く。ご利用者様にお茶をお出しして頂いたり、一緒に洗濯物を干して頂いたり、役目を担っていただく事で、活き活き暮らして仲間意識の関係を築いて欲しい。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	このホームには家族の出入りが多いので、面会のたびに、変化や、診療医師の言葉とか伝えたり、ブログで元気な姿が週2回紹介されるので楽しみにされている。誕生会には毎月声掛けているのでその時来れる時は自分の親の誕生日でなくても参加され関係作りは出来ている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係者に小まめに来てくださいとお願ひしていますが、だんだん間が遠くなってきます。場所についても住まわれていた近くへ行くときは支援していますが、覚えられている方は殆どいられません。	以前住んでいた自宅周辺へのドライブ、昔の同僚や近隣の方々の訪問、ホームがある地域が以前の仕事関係での馴染みの場所であるなど、馴染みの関係性への継続支援がある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名の小さな家庭の一員の様な関係で何時もテーブルをくっつけて回りに座られ、孤立せずに関係を把握できており、係わり合い支えあっていけているように思う。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後自宅へ戻られた方2名いられたが当時は電話をして話していたが、2年以上経つと電話しても留守だったりすると忙しさに紛れ、気付くと疎遠になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ワンユニット9名の少人数なのでひとり、一人の思いや意向は希望に沿いたい。意向はプラン変更時に必ず聞いている。	日々のかかわりを通じて、利用者の思いや希望の把握に努めている。把握した思いや希望等は、日々の記録や申し送りノートに記し、センター方式の様式に転記するなど、共有が図られている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴・馴染みの暮らし方、生活環境サービス利用する前に聞きだし把握している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送り時其の人の状態について職員同士気付いた事を話、家族面会時には家族と話すようにして介護計画書に反映させている。	日々の記録や申し送りノートを参考に担当職員による毎月のモニタリングが行われている。3ヵ月毎及びその都度のカンファレンスにて、介護計画内容の見直し・再作成が行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間では職員会議の後のフロアミーティングで担当者会議をし話し合うように決まっている。情報の共有しながら実践や介護計画には生かされている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其の時のニーズに合わせたサービスを致します。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に、2週間に1度医師が来訪診察している。ホームで異常に気付いたときは、医師に連絡指示頂き家族連絡の上救急搬送もある。又総合病院で検査を受ける事もある。	ホーム協力医あり。利用者のいままでのかかりつけ医への受診は、家族対応で可能である。近隣の歯科医院への通院対応や他専門病院への受診は、主治医から情報提供書を頂いて受診するなどの支援がある。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが、医師には気づきや情報連絡を毎日のようにFAXか電話し伝えている。医師からは折り返しの連絡が其のたびにある。医師の指示があれば受診を受けている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があれば、病院へ出向き、病院関係者に情報連絡もらえるよう相談に努めている。病院の医療連携室、ソーシャルワーカーとの関係作りは日頃から行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、お話しとしてはしているが、改めて話しを持ちたいと連絡したご家族様はいますが結果は出来ませんでした。まだ終末期を迎えられた方はなく、取り組まなければならないと思いますが、マニュアルが欲しいと思います。	センター方式の記入時に利用者の意向の把握を行い、契約時に家族への説明は行っているも、意向の把握までは至っていない。	今後、法人全体として、看取りについての意思確認書等の様式の充実を図られ、利用者本人の終末期に対する意向等もふまえて、更なる利用者の尊厳ある暮らしの支援への取組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時は即、救急搬送をしている。訓練はしていません。定期的に訓練はした方が実践力がついてよいと思います。会社全体での研修には参加しています。AEDの職員全体による説明は業者から来てもらい時間をかけてしています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練・水害非難訓練はしています。運営推進会議でも話し合い協力体制お願いしています。次回地域の協力による訓練を予定しています。	消防署立会いによる年2回の避難訓練、及び1～2ヶ月に1度の自主訓練が行われている。運営推進会議時に、非常災害時等における提案を随時行っている。今年度は、地域合同避難訓練に参加予定である。	地域合同避難訓練への参加を実現され、非常災害時等におけるより一層の地域との協力体制作りと、緊急時連絡網の再考察への取組みに期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ていると思います。	日本一の接遇を目指して、法人全体として取り組んでいる。利用者に関する記録は、適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを守れるように努めています。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけの時は、特に気をつけてその人らしく持参されているものの中から、身だしなみ・お洒落をしています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のお手伝い出来る方は現在お一人様です。時折一緒に作っています。片付けは毎日一緒にしています。	テーブルやおぼん拭き、豆の皮むき、下膳など、利用者の出来ることを把握して、利用者と職員が協力して取り組んでいる。食事は3食ともホームで手作りしており、見た目やバランスを考慮しながら、調理を行っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	しています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立までは行きませんが排泄パターンを活かしてトイレ誘導行っています。	定時のトイレ誘導と排せつチェック表の活用、利用者の動作等から利用者毎の排せつパターンを把握してのトイレ誘導が行われている。	細かな観察と排せつチェック表の活用により、排せつ間隔の把握が出来ています。これらの把握した情報を活かした、排せつの自立に繋がる取組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけの事はしています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	タイミングにはあわせて入浴は楽しく行っていますが、希望を聞きだすのは、難しいです。毎日沸かしてタイミングや前の日入浴されていない方対象です。	週3回の入浴実施である。入浴準備は毎日行っており、その時々の利用者の希望やタイミングに沿った入浴実施である。夕食前後の入浴希望があれば、対応していく方針である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	しています。		
49		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認については努めていますが、医師の処方されたものを、疑問に思っても、云うわけにいかず、症状をこまめに医師に伝え、指示を頂き連携しているがその間のご利用者の苦しみを考えると、もっと勇気を出し専門分野にこだわらず指摘も必要かと思えます		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として出来る事はしてもらっています。活き活き過ごせるよう個別に支援しています。気分転換は外食カラオケレク・ドライブ等定期的実施しています温泉旅行も事情の許す方はお連れしています。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の云える方はいませんが、買い物や銀行等へ一緒に行ったり地域行事へ出かけた、家族と出かけられることもあります。	日常の散歩や外気浴、その時々買物や郵便局への同行、地域行事への参加、月1度のドライブ、季節毎の花見など、戸外に出ることを意識した取組みがある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で所持されている方は御2人ですが、使われる事はありません。たまにパン屋さんが来た時買われるくらいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話されることはありませんが、家族から掛かってくる時は話されています。手紙に関してはご家族から来たりFAXがあります。出される事はありませんが、年賀状だけは支援しています。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や、季節感は取り入れています。玄関に関しては、不穩に陥ると行かれます。一緒に出るように努めています。	自然光を採り入れた明るいリビング、リビングから続くウッドデッキは開放感がある。ウッドデッキの隅では洗濯物が太陽の光を浴びながら気持ちよく風になびいており、生活感あふれる居心地の良い共有スペースとなっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所があります。思い思いに過ごされているようです。認知症高齢者は、テレビを集中して見ることも、気の合った利用者同士ということもなく過ごされています		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の思い思いにお部屋の工夫をされ、使い慣れた好みのものを活かされているところもあります。写真を貼ったり、カレンダー・時計にて過去・現在・未来の時の認識をして頂く様支援して参ります。	タンスや写真、時計、ぬいぐるみ、整理用収納用品などの馴染みの物や使い慣れた物が持ち込まれている。生活の場を意識した居室作りへの取組みがみられた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の生活リハビリとして出来る事を探し、して頂く様支援しています。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			